

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192500011		
法人名	社会福祉法人 清心会		
事業所名	グループ ホーム 夢の郷		
所在地	岐阜県安八郡神戸町丈六道村西59番地		
自己評価作成日	平成24年10月3日	評価結果市町村受理日	平成24年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;li_gyosyoCd=2192500011-00&amp;Pr_efCd=21&amp;Versi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;li_gyosyoCd=2192500011-00&amp;Pr_efCd=21&amp;Versi_onCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成24年10月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

神戸町の北部に位置し、1階にデーサービスと併設されています。ボランティアによるレクレーションなど、一緒に楽しむことが出来ます。本年10月で丸三年を迎えます。現在8名の入居者様をお迎えしております。  
 その人らしく、ありのままの姿で生活を送って下さる事が、私達職員の喜びです。私たちが楽しまずして、入居者様が楽しいはずがなく、“笑顔で、笑顔で”を心がけております。  
 身体介護よりも精神介護。入居者様の身に限らず、そのご家族や他の職員に対しても精神的な充足感を与えることのできる私達でありたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「わたしたちがあなたのもうひとつの家族です」を理念に掲げ、利用者の個性を尊重し一人ひとりに応じた声掛け、ケアを心がけ、利用者が笑顔になり、楽しく過ごせるよう工夫しています。運営推進会議には利用者全員が出席し、各々が自分のことばで話している。食事時には、利用者に順番にテーブルを拭いてもらったり、嚥下体操の声掛けを行ってもらうなど、利用者が主役になり楽しく過ごせるような配慮をしている。管理者と職員は、「どう思いますかシート」を活用し、次の行事をいかに楽しく過ごしてもらえるか、利用者に合ったケアをするにはどうしたらよいかなどを話し合っている。また、職員は、毎月、課題を決め、当番制で勉強会を開きサービスの質の向上を目指していこうとする姿勢がある。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼(申し送りの際)に法人としての理念、行動指針を唱和している。一人一人の意識が変わることが大切だと思う。	事業所の理念として「私たちがもうひとつの家族です」を基に、利用者の思いをくみ取り、笑顔で接している。互いに楽しみ元気に挨拶するなどスタッフ、利用者の信頼関係を築いている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の店や民生員さん、小学校の児童らの訪問を受け交流を図っている。継続していきたいと思う。	民生委員をはじめ、地域の人や子どもたちの訪問が多い。また、公民館まつりや文化祭、運動会、ふれあいまつりの屋台に出かけるなど、地域と活発な交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生員の方を通じて、地域の方々の入居希望のや困りごとなどの相談にのっている。+		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様も全員参加し、毎回、自己紹介などを行い、名前を知って頂くなどしていき。発言は時々流れと違った方向に行ってしまいますが、それが笑いになったり、和やかなでホームのその物を知って頂く良い機会となっています。	会議に利用者全員が参加し、認知症や事業所を理解してもらっている。事業所の日常の様子や取り組み、ヒヤリハットなどの報告、避難訓練、熱中症、食中毒の予防対策について話し合いをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センター・社会福祉協議会とは隔月の運営推進会議等情報交換ができています。現実には足を運ぶように思うが、情報の交換ができていない。	事業所の行事には、民生委員や地域包括支援センターの職員の参加はあるが、市町村職員の参加は少なく、事業所からも市町村に出かける事は少ない。	改正したパンフレットやホームのたよりを持参し、市町村担当者との関わりを持つ機会を作るなど、積極的に協力関係を築くことを期待したい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	入居者様の多動な方で危険認識がなく、夜間帯スタッフが1名の配置の為、御家族に危険防止の為に了承を取り付けた例があるが、施錠に関しても、2階のある為、せざるを得ない。入居者様の要望があれば、開けるようにしている。	講習を行い、身体拘束のないケアに取り組んでいる。建物の2階という立地から階段の扉は施錠しているが、利用者を見守り、外に出たい様子があれば、解錠し利用者につき添って一緒に外に出るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や委員会参加で、虐待と認識がないまま行っていた事がある事を再認識した。		

グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人については、以前の職場で、御家族様が活用しておられた。が詳細は学ぶ機会なく、勉強不足である。関係者と話すところまで、及んでいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	7月度に利用料の改定を行なった。その際も御家族様に面会際に説明を行った。契約時はもとより、分かりやすい言葉で説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、必ず声をかけ最近の様子をお聞かせしている。その際に要望などや意見を伺うようにしている。そのことを申し送りノートや朝の申し送り時に周知している。	意見ポストを設置しているが、話しやすい雰囲気と声かけにより、口頭で伝えられることが多い。また、利用者全員と家族代表が出席している運営推進会議等でも行事の要望や意見を聞くなど、運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見は良く出る。ただ他人の批判をするばかりでなく意見として受け入れる姿勢が大切に思う。(どう思いますかシートを活用する事で円滑に行く場合がある。	職員がそれぞれに記入する形式で、意見を出し合うシートを作り、活用している。管理者は、異なる意見についても、充分話し合える環境と関係を作っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人も新たに、スキルアップの制度の見直しの為委員会6月より立ち上げており、そこに管理者も参加し検討を行っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に、連絡、報告、相談等をしていないと把握は難しいと思う。連絡、報告を密に行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	内部、外部に限らず研修に参加する機会を進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接等で、ご本人を知るの難しい、御家族の情報や要望を丁寧にお聞きしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族は介護の軽減を考えられているが、ご本人にとって、環境の違ったところで暮らす事も不安なのに、「いやになったら、帰ったらいいですよ。」と入居者様や御家族の不安を受けとめるよう、力まずに耳を傾けるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護なのか、医療なのか御本人を含め何が必要か同じテーブルに着くことや、一緒にホームに見学にきてもらい、ホームの職員にもその人に接してもらうようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が笑顔で、楽しんでいなければ、入居者様も楽しいわけがないので、共に暮らしを楽しむことで関係性が密になっていくように心がけています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族交流会を敬老の日を祝って開催した。初めての試みで、おはぎ作りを一緒に行い、喜んでいただけた。長時間一緒に過ごす機会があまりなく、ホームでの暮らしを知って頂きたい機会であった。継続して行っていく予定です。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族以外の御兄弟や、近隣の友人など、一度面会等にいられた時は必ず次回も来ていただくように声掛けをしています。	利用者の希望から、友人訪問や遠方家族からの電話をかけてもらうように依頼をしている。また、不穏時には、安心してもらえるように電話口に出てもらい支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ほとんどの入居者様は、会話ができるがつじつまが合わず喧嘩に発展する場合もある。職員が緩衝役となって、関わっていくようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方々は一時医療関係におられたが、回復され、清心苑に移動入所になったが多く。会にいていいる。法人内なので、職員にも連携が取り易い。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向が伺えない場合があるが、気心の知れた馴染みの関係であり、じっくり傾聴することで把握していく。	利用者の話をじっくり聞き、日々の行動やしぐさを見守り、表情の変化からも把握している。また、家族からの情報も役立てている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人の生活歴や職歴を把握し、その人知っていく。意向が訊き取れない場合もあるので、御家族などの情報も入れ、日々の気づきや表情の変化から捉えていく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別援助が望ましいが、現実、まだその域を脱していない、一時的なものでなく、継続的に行える		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	短期目標の達成の際にモニタリングとして職員一人ひとりが評価をしているが、ケアマネ中心に同じテーブルについて検討がされていない。今後の課題となっている。	3ヶ月ごとに全職員がモニタリングシートに評価を記載している。状態に変化があれば、家族に状況を説明、提案をして了解を得ている。しかし、関係担当者が集まって介護計画の検討をしていない。	関係担当者が、互いに意見を出し合い検討する事により、本人が穏やかに暮らすために、より良い介護計画を作成することを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの整合性からも記録にしっかり書かれている。朝の申し送りで口頭や記録に照らし合わせて共有し、実践に繋げていくようにする。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存の物と捉われない柔軟な支援、個別支援でうちの事業所しかできない事を模索中である。家族会は第1回を開催した、好評であった。		

グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生員さんなど、気軽に遊びに来て下さる。近隣の情報など大変にありがたくその広がりを楽しんでいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際ホームでの様子をお伝えするが、うまく医師に伝わらずに、歯がゆい思いをすることがある。時には職員も一緒にかかりつけ医に同行することもある。今後も医療機関の連携をとっていく。	馴染みのかかりつけ医を継続している利用者が殆どで、受診は家族が対応している。受診前後の情報は共有しているが、医師へ情報がうまく伝わらない時は、受診に職員が同行することもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設のデューサービスに看護職員が配置されている。毎週日曜日にはバイタルチェックなど健康管理を行ってもらっている。又、特変事や些細な事でも気軽に相談に応じてもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供書を官らず求められるので、情報交換ができています。又、足を運ぶようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	法人内対応可能な、施設をもっている。御家族との話し合い、緊急時医療機関などを定めてある。 GHではターミナルケアは行っていないので、重篤になるまえに、その施設へ移行を決めておく。	事業所の方針は、食事を少しでも自力摂取できること、車いすを使わず移動できることを、入居時に説明している。経管栄養や車いす使用など重度化した場合は、入院を含め状態をみながら事業所ができる事を話し合い支援している。法人内の特別養護老人ホームでの対応となることや、その施設への移行についても話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年2回の、避難訓練と合わせて、急変時対応の講習を受けている。看護職員が併設施設に配置されているので、指示を受ける。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進会議で回を重ねるごとに親しくさせてもらっている。緊急の場合協力をお願いしている。近隣の消防団員(私設)の方にも協力依頼をしてある。	避難訓練時に、消火器の扱い方、人員点呼などを行った。地域の人々にも参加を呼びかけ、12月には夜間想定避難訓練を予定している。水、パン、レトルトのお粥、オムツなど3日間の備蓄を用意している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	聴力が弱い方など、耳元で話しかけたり、人前で大きな声で言わないようにしています。ゆっくり話しかけています。トイレや着替えをするときなど人目さらされないようにしています。	排泄時の誘導は、他者に分からないように耳元で「お手洗いに行きませんか」と話しかけている。職員は、日頃から人格を尊重し、不穏時には、利用者の気持ち、プライバシーを損ねないように配慮した言葉かけを行い、落ち着ける対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まずは、入居者様に意向を伺うようにしている。どうしたいのかなど、傾聴している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿って支援しているが、時として職員側が優先してしまうことがある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	受診などで外出される時など、自主的にメイクアップされ身支度されている方もおられる。他の方には声掛けで食べこぼしのしみがついたまま着用していなか、髪をなでつけるなどしていただいている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事量なども考慮している。全部食なくてはいけないと言われるのが、負担に思われる方もおられるので「お好きなだけ」としている。ご飯を盛る、おかずを鉢に盛る。など職員と一緒にやっている。静かな曲などを流している。	利用者と一緒に、順番に声を掛けあって食前の嚥下体操を行い、全員が台ふきんを送りながらテーブルを拭き、食卓の準備をしている。利用者同士や職員との会話をはずませながら、一緒に楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は法人の栄養士や厨房業者の栄養士なので、献立をたたえている。食べる量や栄養バランス面など、相談できる。ミキサー食や、あら刻み、などその人に合ったように提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、義歯の清掃やうがいをいただいている。		

グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間はオムツでも日中はショーツで対応し、排泄パターンに合わせた声掛けをしています。	骨折した利用者には、一時的にポータブルトイレを使用したことがあるが、殆どトイレでの排泄介助をしている。夜中もリハビリパンツを使用しながら、トイレでの排泄をめざした支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者は薬の力を借りないと、排便がスムーズにいかないときもあり、各自主治医に下剤を処方をしていただいている。おやつに繊維質の含む物や牛乳、ヨーグルトなどを飲用して頂くようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	本人の希望に沿うようにしているが、サイクルなど決まってしまう。概ねA勤者が入浴介助となる。浴槽内では歌を歌ったり、お気に入りの入浴剤など使用している。	希望があれば、毎日の入浴も可能にしている。入浴を嫌がられる時は、翌日にしたり、入浴剤で勤めたり、一緒に着替えを準備して入浴気分を盛り上げ、利用者に合わせて対応をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午後をお昼寝タイムとしている。レクリエーションのボランティアが訪問している時などは、ご本人の希望で参加するようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様のファイルに薬情書があり、職員が周知している。処方の変更になったり、新しい薬が処方された時などは申し送りノートに記入してあるので、出勤時に目を通すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	朝の掃除、洗濯物干し、モップがけなどその人にあつたように役割として行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候、体調など考慮して散歩、喫茶店への外出や日常の買い物への同行をしている。今後はその人のニーズに応じた個別の外出支援を行うことで、QOLを高める為にもリスクを恐れず柔軟に対応していきたい。	徒歩と車を往復で交代して、近くの神社へ日常的に出かけている。スーパーなどで買い物や、喫茶店も楽しんでいる。法事や結婚式などに参加できるよう、家族に依頼している。	



グループホーム 夢の郷

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	「今日はお金もってへんから帰るわ」とか、お金がない心細さや、不安を訴えられる事がある。「こちらでお預かりしていますので、いつでも出しますよ」。買物などは職員と一緒に出かけたりしています。管理はホームで行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族や友人に職員を通して、電話や手紙のやり取りをしてもらっています。電話は御家族の声を聞くと落ち着かれ場合と、人恋しくなってしまう場合があり、その時の状況に応じて対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	大きなソファがあり、ゆったりと座わり、会話がはずみます。季節の壁飾りや、季節の花など飾っています。西側にあるサンルームなど、ひっそりと少人数で語らう絶好の場所です。	テーブルの上には散歩時に摘んだ花や季節の花を飾っている。大きなソファでは、うたた寝もできる。サンルームでは、ガラス越しに山や外の景色を眺めゆったりと過ごすことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングで談笑したり、テレビを見たり、本や雑誌を読んだりすることなどは定着している。サンルームなど、日向ぼっこに最適な場所で大きな窓から山並みや車の往来の眺めるのに絶好の場所です。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に居室には馴染みの物を持って来てもらうようにお伝えをしてある。又、居室の移動なども、御家族様から要望があれば、相談し納得してただよう対応している。	利用者自作の木彫り引出しなど家具類を置き、家族の写真を飾っている。また、ベッドの位置、窓や照明を含め家族、利用者の好みや考えに添うようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室や風呂やトイレがわかるように、表札や好きな花などが貼ってある。キッチンとリビング離れており、見守りが手薄になる時がある。(構造上無理がある。)		